

(別紙様式 2 - 2)

道徳教育地域支援委託事業実施報告書 (平成29年度)

1 学校の概要

- (1) 学校名
三豊市
学校組合立三豊中学校
観音寺市

(2) 学年別児童生徒数及び学級数、教員数

① 学年別生徒数及び学級数

	第1学年	第2学年	第3学年
学級数	4	4	4
生徒数	120	109	126

② 教員数

34

(3) 学校の特色

本校は、「自ら学び、豊かな心を持ち、たくましく生きる人間の育成」を教育目標としている。「ひと手間をおしまぬ教育活動を通して、自尊感情を高める！」を教職員の合い言葉に、「学習指導」「情操指導」「生徒指導」「健康安全」の4つの指導部会を軸に、教育活動を進めている。また、人権・同和教育を積極的に進めており、平成26年度は全国人権・同和教育研究大会の「人権確立をめざす教育の創造」分科会においてなかもづくりを研究主題とした提案発表を行った。平成27年度から道徳教育地域支援委託事業を受け研究に取り組み、今年度で3年目になる。

2 研究主題等

(1) 研究主題

なかもと共に育む豊かな心
～道徳の時間を軸とした、こころの教育の推進～

(2) 研究主題設定の理由

本校は平成26年度、なかもづくりをテーマとした、人権確立をめざした教育の実践研究を進め、班や学級、学年団などの、集団としてなかまを温かく受け入れる状況が生まれた。平成27年度は、それまで取り組んできたなかもづくりを道徳教育の広い視点から捉え直した。道徳教育推進プロジェクトを組織し、全教職員で取り組む道徳の時間の指導体制を整え、年間指導計画に沿った道徳の時間の学習をこれまで以上に充実させようと努めた。その結果、校内指導体制が整い、道徳教育に対する教師の意識も高まってきた。平成28年度は、前年度までの実践をさらに継続・深化させるとともに、平成31年度からの教科化に向け、道徳の授業を中心とした総合単元化の充実を図った。

そこで、本年度はこれまでの研究成果をさらに継続・進化させるために、道徳の授業を中心とした総合単元化の充実を図るとともに、道徳の評価方法を工夫することで、こころの教育を推進していくことにした。

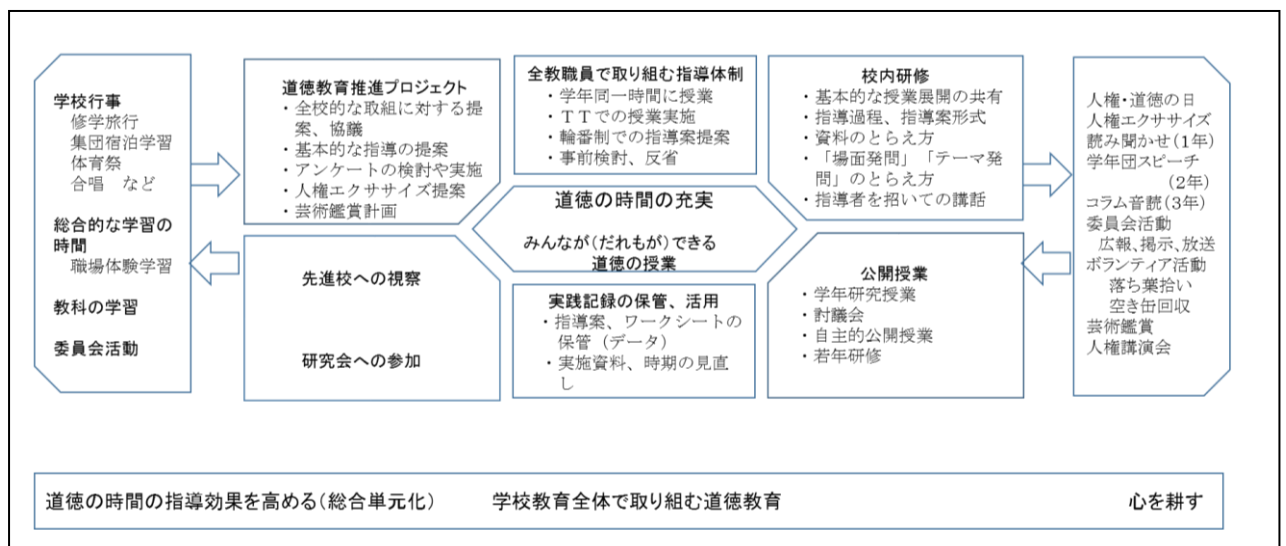
(3) 研究内容及び方法

平成28年度までと同じように、「道徳の時間の指導改善」「道徳の時間の指導効果を高めるために」「心を耕すために」を3本柱として取り組んだ。

それぞれの具体的な実践は次のとおりである。

- 道徳の時間の指導改善（だれもができる道徳の授業をめざして）
 - ① 「道徳教育推進プロジェクト」
 - ② 「全教職員で取り組む指導体制」
 - ③ 「校内研修」
 - ④ 「公開授業」
 - ⑤ 「実践記録の保管・活用」
 - ⑥ 「先進校への視察、研究会への参加」
- 道徳の時間の指導効果を高めるために
 - ① 「総合単元化（学校行事）（総合的な学習の時間）（教科）」
 - ② 「評価方法の明確化」
- 心を耕すために
 - ① 「人権・道徳の日（人権エクササイズ）」
 - ② 「読み聞かせ」
 - ③ 「学年集会スピーチ」
 - ④ 「コラム音読」
 - ⑤ 「広報委員会による掲示・放送」
 - ⑥ 「ボランティア活動」
 - ⑦ 「芸術鑑賞・人権講演会」

研究全体構想図を以下に示す。



【全体構想図】

3 研究実践

(1) 道徳の時間の指導改善のために

今年度も、「みんなが、だれもができる道徳の授業」をめざして、「道徳教育推進プロジェクト

ト」「全教職員で取り組む指導体制」「校内研修」「公開授業」「実践記録の保管、活用」「先進校への視察、研究会への参加」の6観点での研究を進めてきた。

① 「道徳教育推進プロジェクト」

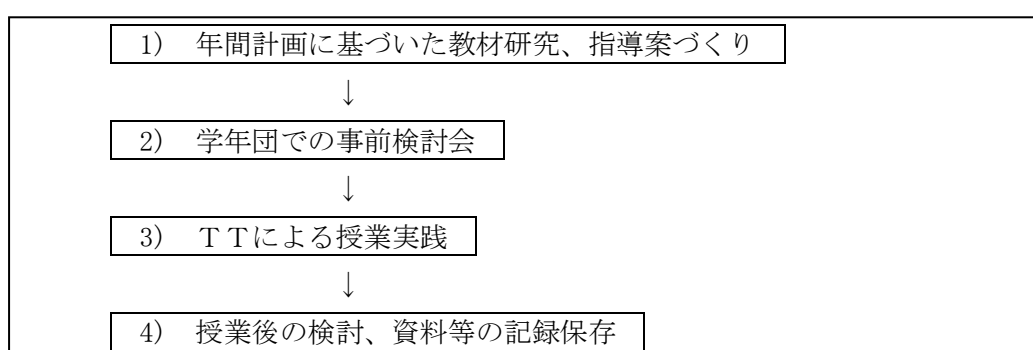
各学年から2名と、校長、教頭の計8名で構成されており、毎週月曜日の4校時にプロジェクトの会をもった。

「人権・道徳の日」の取組内容の提案や協議、周知などを行っている。また、先進校視察や研究会で学んできたことを報告し、それを各学年団へ伝達し広めていく場とした。

② 「全教職員で取り組む指導体制」

本年度も、全教職員で取り組む指導体制づくりとして、学年ごとに同一時間に道徳の時間を設定して、共通資料を用いたTTでの授業を実施した。

学年団全職員が輪番制で指導案を提案し、事前打ち合わせをして共通理解を図った後、授業実践をしている。次のようなサイクルに従って道徳の時間の指導を進めている。



事前検討会では、資料の確認や発問の吟味等の確認を行った。

③ 「校内研修」

道徳の授業に必要な基本的な考え方や技法について再確認をして、全職員の共通理解を図り、同一歩調で取り組めるようにした。特に本年度は、評価のあり方を中心に研究した。来年度以降の「道徳」の評価方法の方向性を明らかにした。

④ 「公開授業」

学期に1回行う校内研究授業を、今年度も道徳で実施した。各学年1回の提案授業に向けて、学年団で事前に検討をした後、全体に授業提案をした。「発問」を意識した指導案づくりとともに、様々な学習形態の工夫（ペア、グループ、半円型、コの字型など）や活動の工夫（役割演技、心情円盤、ネームプレートの活用など）、授業での評価のあり方などを心がけた。授業後は討議会をもち、よかった点や改善点などの意見交換をして、今後の授業に生かした。

⑤ 「実践記録の保管、活用」

授業実践後は、サーバーにデータを保存するとともに、紙媒体でも指導案やワークシート・掲示資料等をファイルやクリアケースに保存して、次年度に生かすようにした。

⑥ 「先進校への視察、研究会への参加」

今年度も道徳教育先進校への視察や研究発表会へも積極的に参加した。そこで学んだことは、道徳教育推進プロジェクトの会や委員会、校内研修の場で報告し、授業実践に生かした。

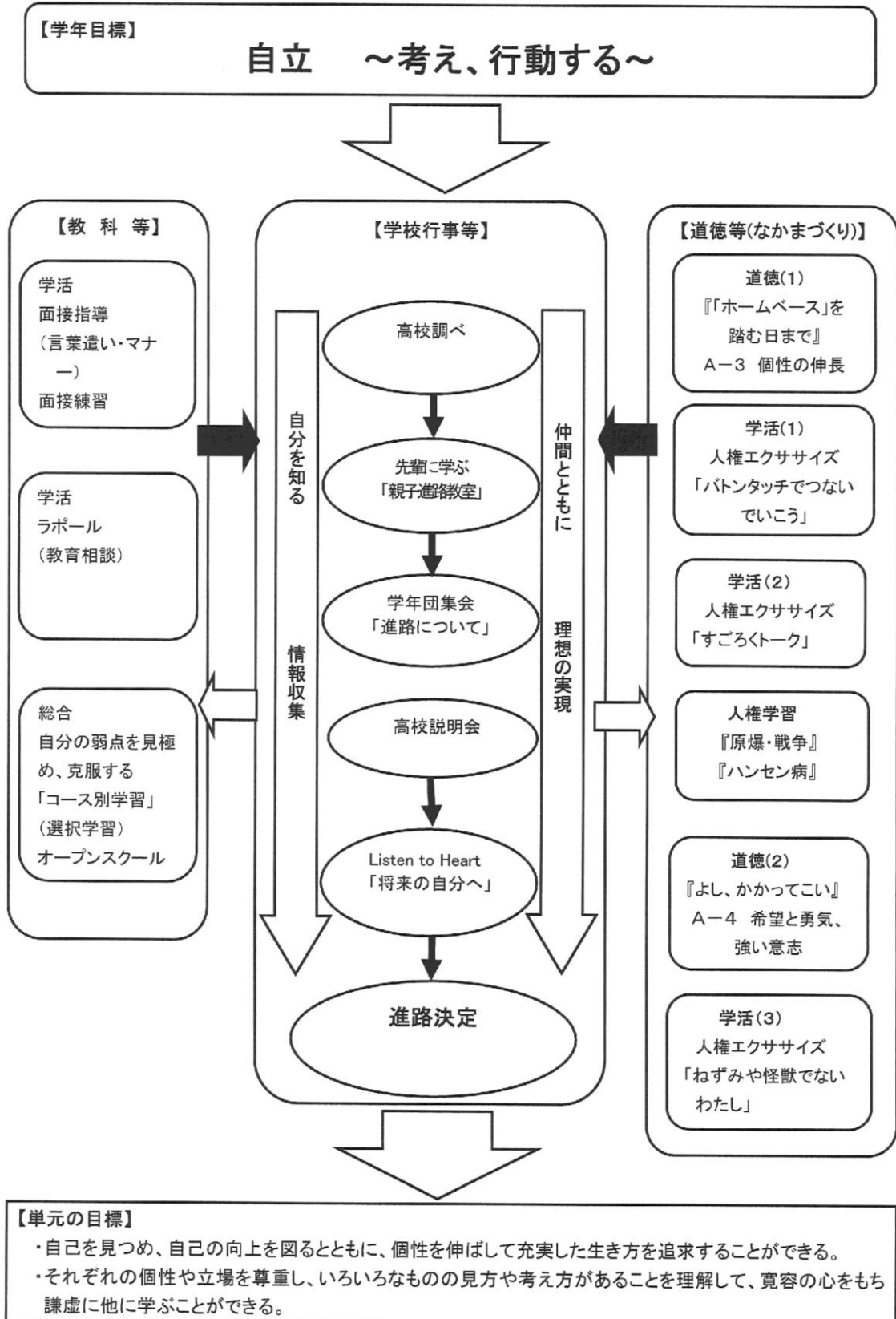
(2) 道徳の時間の指導効果を高めるために

① 「総合単元化」

学校行事や総合的な学習の時間、教科の学習、委員会活動等、いろいろな教育活動と連携させて、道徳の授業の指導効果を高めようと総合単元化を図った。これまでに実践してきたことを補充・充実させた。

例として、3年生の進路に関する単元の構想図を以下に示す。

単元構想



② 評価方法の明確化

「道徳プロジェクト」や「校内研修」において、評価方法を検討した。次のように実施していくことにした。

道徳の評価
1 実施時期
平成30年度より、本格的に実施する。
2 方法
○ 道徳の授業での評価
・生徒の自己評価
道徳の授業への意欲を中心に自己評価をする。
・教師による評価
ワークシートの記載内容に対して、文章表現で評価をする。
○ 学期ごとの評価
・教師による評価
毎時間のワークシートをまとめている「道徳ファイル」の記載内容の変容などから、文章表現で個人内評価をし、通知票に記載をする。また、個々の内容項目ごとでなく、大きくりのまとまりを踏まえて評価をする。

(3) 心を耕すために

道徳の授業で学んだ価値を行動につなげたり、心を耕したりするために、次のような取り組みを本年度も継続した。どの取り組みも昨年度の内容をレベルアップできるように見直し、改善した。特に、「人権・道徳の日」の内容を充実させた。

① 「人権・道徳の日」

◇ 目的

道徳と人権に関する学習を相互に関連づけて指導効果を高める、人権意識を高めるとともに、道徳の授業で学んだ価値を行動につなげたり心を耕したりする。

◇ 具体的な取組

○ 実施日等

毎月10日に近い水曜日を「人権・道徳の日」とする。朝の会の時間に、全学年・学級が同じ資料を使って「朝道徳」を実施する。また、6時間目には「人権エクササイズ」を全学年・学級で実施する。

○ 具体的な実施内容

「朝道徳」

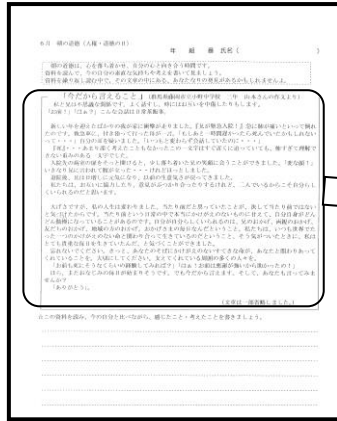
資料は、年度当初に学校行事等

月	啓発内容項目
4月	A(2) 節度、節制
5月	C(15) よりよい学校生活、集団生活の充実
6月	D(19) 生命の尊さ
7月	C(10) 遵法精神、公德心
9月	B(7) 礼儀
10月	B(9) 相互理解、寛容
11月	D(20) 自然愛護
12月	C(14) 家族愛
1月	C(17) 我が国の伝統と文化の尊重
2月	D(21) 感動、畏敬の念
3月	C(12) 社会参画、公共の精神

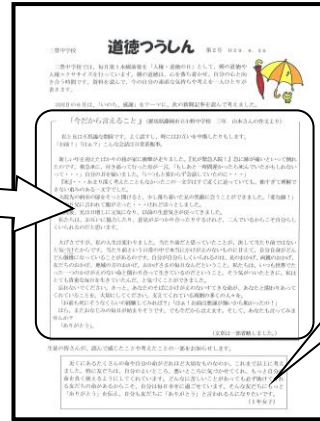
【毎月の啓発内容項目】

との関連から設定した毎月の啓発内容項目にしたがって「人権・道徳プロジェクト」メンバーが、各種の読み物や『私たちの道徳』等から提案する。全生徒が資料を読み、生徒が自分の心と向き合い、考えたことをワークシートに書くという取り組みを行っている

生徒が考えたことや意見は、毎月発行している「道徳通信」にまとめ、全家庭に配布している。また、「道徳通信」には生徒が「朝道徳」で読んだ資料を掲載しているので、家庭で生徒と保護者が考えを深め合うこともできる。



【生徒が使うワークシート】



【毎月発行する「道徳通信」】

ここと裏面が
生徒の感想

人権エクササイズ

心情を育てて行動につなげる「朝道徳」に対して、「人権エクササイズ」は、いろいろな活動をさせることで、自分を表現させたり相手を理解させたりする。これらのことを通して、なかまづくりを図り、和やかな学級集団づくりを目指している。そして、「いじめ」の発生防止につなげている。

年間計画は、右の表に示すとおりである。毎年少しずつ内容を変え、上級生も新鮮な気持ちで取り組めるようにしている。

生徒たちは和やかな表情でエクササイズを楽しんでいる。下左の写真は、5月に実施した「バトンタッチでつないでいこう」の様子であり、下右の写真は、6月に実施した「広告パズル」の様子である。

月	エクササイズの内容
4月	X先生を知る イエス・ノークイズ
5月	バトンタッチでつないでいこう
6月	広告パズル
7月	私は誰でしょう
9月	宝探しゲーム
10月	何と言っているでしょう
11月	すごろくトーク
12月	ねずみや怪獣でない私
1月	究極クエスチョンQQ
2月	Xからの手紙
3月	(学年・学級の実態に応じて実施)

【毎月のエクササイズ】



【人権エクササイズの様子】

② 読み聞かせ（1年生）

月1回、地域ボランティアの方による読み聞かせを、継続して実施した。生徒は読み聞かせを通して生き方について考えることができている。

③ 学年集会スピーチ（2年生）

事前に与えられたテーマに従って全員がスピーチをして、自分の考えを述べる機会を設定した。発表者は緊張しながらも、自分の考えを堂々とみんなの前で話せており、自分の考えを深める機会になっている。

④ コラム音読（1年生）

教師が順番に、生徒に読ませたい、また生徒に考えさせたい内容のコラムや短い文章を生徒に提示する。それを、朝の学活時にその学年の全学級で音読している。

音読後に、生徒が各自で感想を書いたり、コラムにぴったりの見出しを考えたりさせている。生徒が考えた見出しは学年団の廊下に掲示し、見出しの最優秀を選出するなど、生徒の意欲化を図っている。このことにより、いろいろな人の生き方や考え方を知り、豊かな心がはぐまれている。

⑤ 広報委員会による掲示・放送

各月の生徒会の活動やその月の常任委員会の活動に合わせて、放送や掲示などの広報活動をしている。たとえば、環境委員会が「空き缶回収」や「書き損じ葉書回収」などのボランティア活動に取り組んでいる。その活動を応援するとともに、「協力しよう」という意識が全校生に高まるように、工夫を凝らしたポスターを掲示したり、啓発する放送をしたりしている。

⑥ ボランティア活動

落ち葉拾いや除草作業など、全校生対象のボランティア活動には、自分たちの手で自分たちの学校を少しでもよくしていこうと大勢の生徒が参加し、気持ちのいい汗を流している。生徒会の呼びかけで行われる「朝のあいさつ運動」にも多数の生徒が集まり、生徒玄関前でさわやかなあいさつが交わされている。

⑦ 芸術鑑賞・人権講演会

実際に本物に触れることのできる芸術鑑賞や、生き方について深く考える人権講演会により、生き方について考えさせるきっかけを与えた。鑑賞後、感想や礼状を書かせることで、ただ面白かっただけで終わることがないように心がけている。

4 研究の成果と課題

(1) 成果

- ① 教師の道徳の授業に対する苦手意識が軽減し、学校全体の道徳の授業力が向上した。
- ② 総合單元化をし、学校行事と関連づけた内容を扱うことで、生徒たちは、道徳の授業や総合的な学習の時間で学んだことを行動につなげようとすることができた。このことは、ワークシートに書く生徒の感想が、量的にも質的にも向上していることから明らかである。

(2) 今後の課題

- ① 「考える」習慣は身につけているが、「考え・議論する」まではできていない。可能な範囲で、「朝道徳」でも「議論する」場の設定が必要である。
- ② 平成31年度からの教科化に向けて、効果的な評価の方法を考えていかなければいけない。